協議事項　　次年度以降に向けた取組みの方向性（案）について

（1）開催日について　2018年 9月29日(土) 予定 30日 清掃

次年度以降については、「９月最終の土曜日」の開催を基本に、新たな「秋の風物詩」として大会の定着を図りたい。

2018年 9月29日(土) 30日 清掃
18:30～スタート

【理由】参考資料①・②参照

①熊本市内で開催されている民間主催の地域花火大会（植木・川尻・中島）や、周辺市町村の花火大会は、８月に集中している。

②例年、日没は夏に比べ秋が早まり、そのことで大会終了も早くなることから、健軍商店街や中心商店街で食事などをして帰宅することも想定され、経済効果が期待できる。

③今年の来場者アンケート結果では、秋の開催を望む意見が多く、秋の早い時期であれば、花火の風物詩である「ゆかた」でも鑑賞できる。

④次年度以降、花火大会の開催日を固定（定着）させることで、交通規制などの運営面の円滑化や、「新たな熊本の風物詩」として賑わい創出が期待できる。

（2）花火大会の継続について

「行政」・「民間」・「地域」の「三位一体」となった事業展開を進める。

これまでも当実行委員会の中で「花火大会の継続と魅力アップ」については、提案してきたが、今後、「地域」「行政」「民間」の役割を明確にし、三位一体となった継続的な開催と大会全体の魅力アップを図り、将来的には民間主導による開催を目指したい。

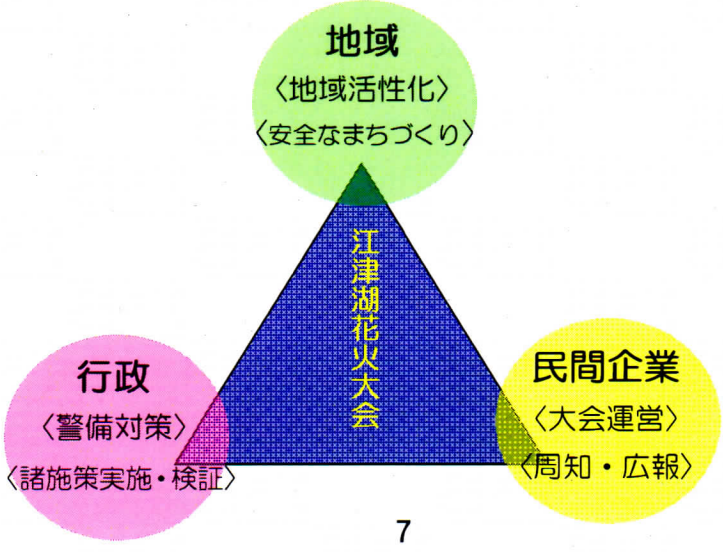
【行政の役割】

交通規制等に伴う地域住民に対する合意形成や県警や消防等との関係機関との連携を強化し、「安心して楽しめる大会」となるよう、更なる安全対策や安定的な運営体制を構築する。

【地域の役割】

合意形成への協力と、大会当日における放置車両等に対する「自分達の地域は自分達の力で守る」といった、自主警備への連携強化と意識改革。

【民間の役割】

三位一体となった事業展開において、民間の活力を最大限に発揮し、大会の継続開催と大会の魅力アップに向けた取組みを実施する。

事業展開イメージ